

演 題 名 ご利用者とその家族の「孫の結婚式に出たい」というビジョンをチームで実現

施 設 名 特別養護老人ホームケアポート板橋

発 表 者 ◎佐山いずみ（介護福祉士） 隅田仁美（介護支援専門員） 宇津木 忠（介護長）
中原弘二（3階・4階統括リーダー） 新堀成江（看護主任） 三浦ルミ（管理栄養士）
前田申明（機能訓練指導員）

概 要

【はじめに】

「春に孫の結婚式があるのですが母の参加は難しいでしょうか」と9月にご家族から出たご希望を実現するために、各部署の職員が高いプロ意識とチームワークをもって、翌年4月を目標にリハビリプログラムを実施。ご利用者の高いモチベーションを維持しながらADL向上を実現し、ご利用者、ご家族に感動の一日を提供することが出来たので、これを報告する。

【症例紹介】

B. M様（86歳女性）要介護4
認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲb
障害高齢者の日常生活自立度B2
既往歴：洞不全症候群（ペースメーカー）、パーキンソン症候群、起立性低血圧など
食事：主食 粥 副食 刻み食
排泄：トイレにて一部介助
移動：車いすにて自走
意思の疎通は可能だが、耳が聞こえづらく正確なコミュニケーションがとれないことが多い。

【治療（ケア）計画】

介護職員佐山を中心に、介護支援専門員・理学療法士・看護師・管理栄養士と相談し、改めてケアプランを立案。半年後の孫の結婚式に出席することを目標とした支援活動を実施した。

- ① 結婚式場に行くまでに必要な歩行練習・階段の昇降訓練・車の乗車訓練などを実施する。
- ② PT と共同して階段昇降のためのマニュアルを写真付きで作成し、全介護職員が支援することが出来る仕組みをつくる。ご家族にもマニュアルを事前に渡し、スムーズに行えるようポイントを伝える。
- ③ 階段昇降の練習を施設内の階段だけではなく、近隣団地の階段をリハビリの場として使用することで、自宅と同じ段差でシミュレーションをする。

【経過】

歩行訓練をしている時は積極的に励ましの声かけを行った結果、徐々にリハビリの成果が出始め、ご家族も「こんなに歩けるようになったんですね！」と非常に驚かれた。

中間目標として設定していた12月の一時帰宅を実施。昇降訓練の成果として、自宅の階段昇降をすることが出来た。ご本人もそれが更なるモチベーションにつながり、その後の乗車訓練へも積極的に挑戦。そのご利用者の姿にチームメンバーを始めとする職員たちはさらに発奮し「B. M さんを結婚式に！」を合言葉に高い意識で、維持して支援にあたった。

【結果】

4月の結婚式に参加が決定。当日はお化粧もして、担当者と一緒に選びに選んだ服で着飾り、「行ってきます」とキラキラした笑顔を見送りに来た職員に見せてくださった。式の後にご家族より、「皆さんのおかげで無事に式に参加でき、孫の晴れ舞台を最高の笑顔で見る事が出来ました」というお礼の言葉とともに、ご本人の希望に向かって頑張る姿にご家族も励まされたとのことのお手紙を頂いた。

【考察】

今回のケースでは一つの目標を設定し、チームが丸となって頑張る。中長期の目標に到達するため必要なモチベーションの維持の為に、様々な人が声掛けをする。階段昇降のためのマニュアルを作成する。場所や環境を変えることで、マンネリ化を防ぎ自宅と同じ段差でシミュレーションする。といったようなしくみ作りに入れている。結果として、リハビリをする→結果が出る→ご利用者がやる気を出す→職員たちもその姿を見てより一層頑張るといった様な好循環を作ることになった。知識や技術もちろん大事だが、それらを駆使するのは我々人間である。それらを効果的に活用し、長く続けていく仕組みづくりが必要な事を改めてこのケースを通して知ることが出来た。